

ステップ運動で表現されるスポーツオノマトペの一考察

An Investigation of Sports Onomatopoeia Expressions Used in Step Exercises

藤野良孝

Yoshitaka Fujino

要旨

陸上競技をはじめとしたスポーツ選手は、自身の運動リズム(足のステップ)を「トーン」や「ターン」、「スタッスタッ」などのスポーツオノマトペ(以下オノマトペ)を用いてイメージすることがある。しかし、ステップを表すオノマトペがどのような運動軌道やイメージを有しているのかよく分かっていない。そこで、「トーン」と「ターン」の運動軌道ならびに「スタッスタッ」がどのようなイメージを持っているのかアンケート調査から分析・考察した。結果、「トーン」よりも「ターン」の方が横方向にステップする軌道の印象をもつ傾向が分かった。「スタッスタッ」は、「すばやく動ける」、「リズムがとれる」といったイメージが内包されていることが分かった。

1. はじめに

体育・スポーツでは、様々なスポーツオノマトペが活用され、その有効性が実践的に示されている(藤野 2008、2014、2016^{a,b}、川本 2010)。今回筆者は、ステップのリズム指導でよく使用される「トーン」、「ターン」及び「スタッ」に注目し考察を行う。スポーツ場面において、「トーン」、「ターン」は同一の意味合いとして使用されることがあるが、両音は微妙にニュアンスが異なると考えられる。

藤野(2008)によれば、アスリートを対象にした調査から「トーン」、「ターン」の意味を次のように解説している(表 1)。表1の下線部に示されたように、双方に共通しているのはリズムと滞空時間が長いことである。音の主な特徴としては、「トーン」は「大きく伸びあがる」という説明に挙げられているように、動きの軌道が縦に向かうような印象をうける。一方、「ターン」は、「上ではなく前に飛ぶ」とあるように横に向かうような印象をうける。しかし、両音は特定の競技から意味を抽出し記載しているだけで、定量的な側面からは明らかにされているとは言い難い。

さらに藤野(2013)は、「スタッスタッ」について「足の運びが軽快になる」と解説し、マスメディアを介した歩行実験でも、被験者から「楽に歩ける」などの肯定的なコメントを得たが、その機能を示唆する情報量としては乏しいと言わざるを得ない。

以上の背景を踏まえ本研究では、(1)運動のステップで表現される「トーン」と「ターン」がどのような軌道を有しているのかを調査すること、(2)「スタッスタッ」にはどのようなイメージが内包されているのかを分析・考察することを目的とする。

表 1 トーンとターンの意味

| トーン | ターン |
|---|--|
| 「大きく伸びあがる。バネのような反力。足移動のタイミング。陸上では大きい <u>リズムカ</u> ルなジャンプや <u>滞空時間の長い</u> ジャンプ。陸上の跳躍では滞空時間の長い力強いジャンプ。」※原文のママ引用。 | 「 <u>弾む</u> ような動作感覚。高く跳ぶ。素早く回る。 <u>滞空時間の長い</u> ことを伝えるとき。上ではなく前に飛ぶ。体操では跳躍動作において、とくに足のステップの <u>リズム</u> ・ <u>タイミング</u> をとるとき。」※原文のママ引用。 |

2. 調査の方法

2.1. 実施日 2016年6月6日に調査を実施した。

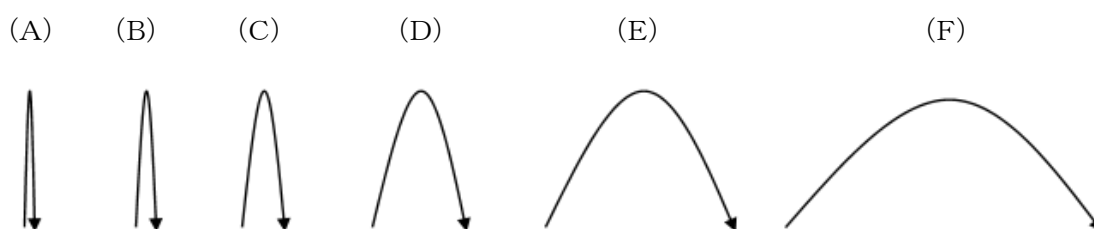
2.2. 対象 専門学校に通う女子学生82名(平均年齢18.9歳)を対象にした。

2.3. 内容 アンケートの質問内容を図1に示す。

2.4. 手続き アンケート用紙は研究者1名、専門学校の教員1名とで一斉配布した。

はじめにオノマトペの意味(擬音語と擬態語の例など)について簡単に説明した。その後「アンケートを始めて下さい」の合図で回答を行わせた。最後に、全員書き終えたかどうかを、研究者が口頭で確認し回収を行った。

■「トーントーンと歩いて」「ターンターンと歩いて」といわれたら、どんな軌道で動きますか?。(A)～(F)の動きの軌道で、該当するアルファベット1つをそれぞれ記載して下さい。



■「すたっすたっとして歩いて」といわれたら、どんな動きのイメージがありますか?。下記に該当する内容に☑をして下さい(複数回答可)。

- 1-すばやく動ける
 2-リズムがとれる
 3-強い力がでる
 4-動きを調整できる
5-タイミングがとれる
 6-リラックスできる
7-その他(自由記述:)

注) 上記以外にも質問項目はあったが、本研究目的と関係ないものは全て除外している。

図 1 アンケートの質問内容

3. 結果・考察

「トーン」の回答結果を図2に、回答数と割合を表2に示す。グレーの色彩が濃いセルほど回答の割合が高い。割合は、A(3.7%)、B(4.9%)、F(17.1%)、C(18.3%)、E(26.8%)、D(29.3%)の順で高くなった。一番割合が高かったのはDであるが、2番目のEとは2.5%しか差がない。このことからDとEの軌道(56.1%)が中核になっていることが分かった。総合的に見て、表1の「トーン」で解説された「大きく伸びあがる」という動きに比較的相似することが分かった。

「ターン」の回答結果を図3に、回答数と割合を表3に示す。割合は、A(1.2%)、B(4.9%)、C(12.2%)、D(19.5%)、E(30.5%)、F(31.7%)の順で高くなった。「ターン」は、FとEの軌道(62.2%)を中核に、「トーン」よりも横方向に向かったステップであることが示唆された。表1(ターン)で解説された「上ではなく前に飛ぶ」の動きを示唆していると考えられる。

先述されたように、両音は、同一的な要素を有しているが、動きのニュアンスには微妙な差異があることが分かった。また「トーン」の長母音(「オ」)よりもターンの長母音(「ア」)の方が口腔感覚と相まって広がりを与えることから軌道の幅の印象に影響を及ぼしたと考えられる。

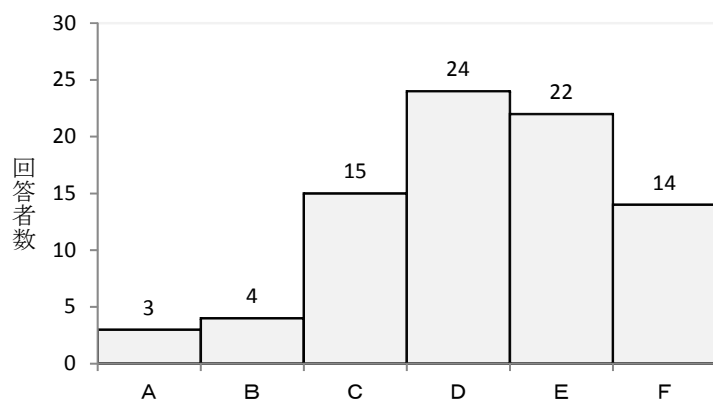


図2 軌道別トーンの回答者数

表2 トーンの回答数と割合

| 軌道 | 回答数と割合 |
|----|------------|
| A | 3 (3.7%) |
| B | 4 (4.9%) |
| C | 15 (18.3%) |
| D | 24 (29.3%) |
| E | 22 (26.8%) |
| F | 14 (17.1%) |

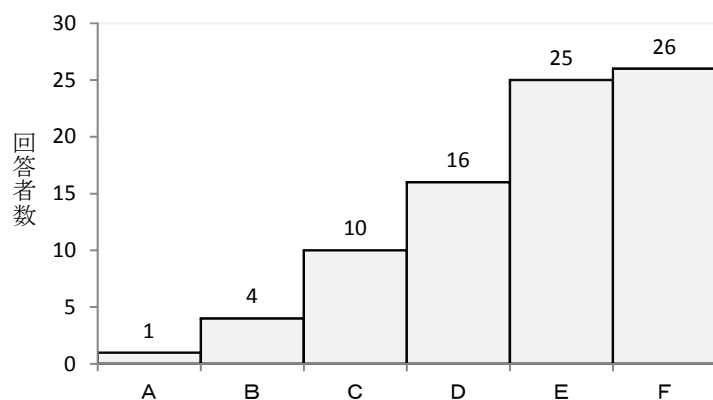


図3 軌道別ターンの回答者数

表3 ターンの回答数と割合

| 軌道 | 回答数と割合 |
|----|------------|
| A | 1 (1.2%) |
| B | 4 (4.9%) |
| C | 10 (12.2%) |
| D | 16 (19.5%) |
| E | 25 (30.5%) |
| F | 26 (31.7%) |

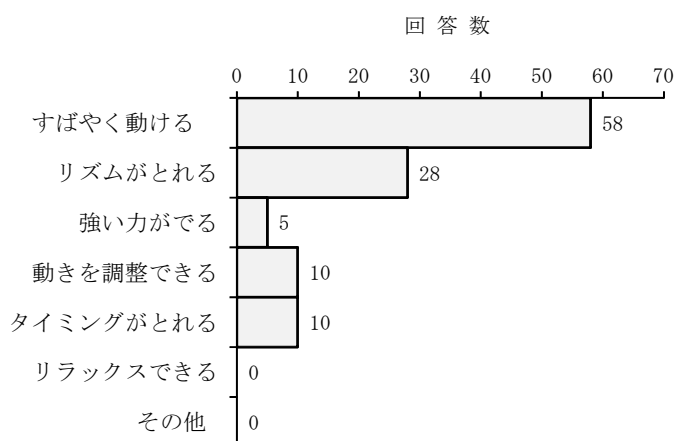


表 4 「スタッスタツ」の回答別割合

| 運動のイメージ | 割合 |
|-----------|--------|
| すばやく動ける | 52.3% |
| リズムがとれる | 25.2% |
| 強い力がでる | 4.5% |
| 動きを調整できる | 9.0% |
| タイミングがとれる | 9.0% |
| リラックスできる | 0.0% |
| その他 | 0.0% |
| 合計 | 100.0% |

図 4 「スタッスタツ」のイメージに関する回答数

次に、「スタッスタツ」のイメージに関する回答結果とその割合を図 4、表 4 に示す。特に回答数が多かったのは、「素早く動ける (58 (52.3%))」、「リズムがとれる (28 (25.2%))」であった。両項は、全体の 77.5% も占めていることから、「スタッスタツ」に含まれるイメージは、この 2 点の要素に集約されていると言っても過言ではないだろう。音韻的に見ると、「S」の清音が素早さを喚起し、「促音(っ)」がリズムにメリハリをつけて、スピードの印象を高めたことが割合に反映されたと推察される。

次いで、三番目は「動きを調整できる (10 (9.0%))」、「タイミングがとれる (10 (9.0%))」が同率で並び、全体の 18.0% を占めた。これについては、「スタッスタツ」を唱える声の抑揚によって動きの調整、タイミングに寄与する影響が変わるので、音声情報を踏まえた更なる検討が不可欠である。

4. まとめ

本研究では、同一的な足のステップを表す「トーン」、「ターン」の軌道の違い及び「スタッスタツ」に含まれるイメージについてアンケート調査を実施し、考察を行った。

結果、「トーン」の軌道は、先行研究の「大きく伸びあがる」動きを概ね示唆し、「ターン」の軌道においても「上ではなく前に飛ぶ」動きを概ね示唆することが分かった。「スタッスタツ」は、「すばやく動ける」、「リズムがとれる」といったイメージが内包されていることが分かった。

「トーン」や「ターン」を体育指導やスポーツコーチングで使用する際は、今回の知見とは別途、聴覚刺激による要素の検討が重要である。今回調査した「トーン」と「ターン」は、文字情報(視覚情報)から、動きの軌道を検討したものであり、オノマトペの活用で最も重要とされる音声情報(聴覚情報)が反映されていない。例えば、跳び箱や走高跳のコーチングなどで使用される「トーン」の声質が、「トーン↓(低音)」、「トーン→(フラット)」、「トーン△(やや高音)」、「トーン↑(かなり高音)」とでは動きの強勢が異なってくることを指摘される。

スポーツオノマトペの研究は、まだまだ発展途上の領域であるが、運動属性に適した音のイメージを手掛かりに、正しい声を発しながら(心の中で呟く)運動を行えば、より理想に近い動作が再現されると考えられる。

謝 辞

本調査を実施するにあたり、朝日大学歯科衛生士専門学校の山田小枝子先生、諸先生をはじめ、アンケート調査にご協力いただいた学生の皆さんに厚くお礼申し上げます。

参 考 文 献

- [1] 藤野良孝(2008)「スポーツオノマトペ」小学館
- [2] 藤野良孝(2013)脳と体の動きが一変する秘密の「かけ声」青春出版社
- [3] 藤野良孝(2014): 日本学術振興会・科学研究費・若手研究(A), 研究成果報告書(平成 23 年度～平成 25 年度)
- [4] 藤野良孝(2016^a)スポーツ場面で使用される声の効果,騒音制御 vol.40 No.1 日本騒音制御工学会、pp14-17.
- [5] 藤野良孝(2016^b) 運動能力がアップする声の魔法①「声の魔法の秘密」くもん出版
- [6] 川本和久(2010)足が速くなる「ポンピュン走法」マキノ出版
- [7] 小野正弘 著 編集(2007)擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典 小学館

藤野 良孝 (経営学部ビジネス企画学科准教授)